

自己改革工程表

当JAでは、第38回JA新潟県大会の決議を踏まえ、中期3ヵ年計画(令和元年度～3年度)を策定し、「農業」「経営(地域含む)」の2分野にそれぞれ基本戦略、重点施策を設定し、取り組んでいます。
令和2年度の実践結果及び年度別計画は次の通りです。

◆令和元年・2年度:達成した項目は○、一部達成は△、未達成は×を表示しています。
◆令和3年度:2年度の検証を踏まえ、修正した項目は※を表示しています。

【農業】

◆さらなる農業者の所得増大と環境変化に応じた地域農業の展開

<農業所得の増大・生産の拡大>

重点施策	目標	行動計画・目標値			担当部署
		2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	
実需に基づく主食用米、水田活用米穀の適正生産・多様な契約栽培(単年・複数年、播種前・面積契約等)の拡大			◆出荷意向調査により早期の出荷予定数量の把握・実需との結び付け	◆継続実施	米穀課
			◆販売先との早期契約・実需確保・継続取引の推進		
契約栽培数量	コシヒカリ 17,140ト こしいぶき 5,960ト ゆきん子舞 3,000ト 多収性品種等 650ト 酒造好的米 370ト もち米 370ト 加工用うるち米 2,400ト 計 29,820ト	○コシヒカリ 17,421ト △こしいぶき 4,488ト △ゆきん子舞 2,434ト △多収性品種等 188ト ○酒造好的米 393ト △もち米 306ト △加工用うるち米 2,488ト △計 27,718ト	○コシヒカリ 17,556ト △こしいぶき 4,488ト △ゆきん子舞 2,491ト △多収性品種等 114ト △酒造好的米 322ト ○もち米 976ト △加工用うるち米 1,476ト △計 27,423ト	コシヒカリ 18,400ト こしいぶき 6,520ト ゆきん子舞 3,240ト 多収性品種等 800ト 酒造好的米 360ト もち米 900ト 加工用うるち米 6,940ト 計 37,160ト	
需要に応じた「新之助」の生産・「業務用米」の生産拡大			◆種籾の早期確保	◆継続実施	米穀課
			◆作付誘導・栽培技術指導		
			◆指導会の開催、展示圃の設置		
			◆業務用米の多収技術の普及		
作付面積、取扱数量	新之助200ha(650ト) 業務用米等100ha(600ト)	○新之助183ha(640ト) △業務用米等92ha(302ト)	○新之助218ha(708ト) △業務用米等95ha(570ト)	※新之助210ha(682ト) ※業務用米等100ha(600ト)	
良食味生産の取引継続 (タンパク質含有率6.0%以下)			◆含有率6.1%以上の生産者への個別指導実施	◆継続実施	営農企画課
	コシヒカリの玄米タンパク質含有率6.0%以下の比率、サンプル件数	98% サンプル件数1,800件	○96.1% △サンプル件数1,807件	○100% △サンプル件数1,723件 ※サンプル件数1,600件	
減減50への生産誘導・特別栽培米の維持継続			◆作付誘導・栽培技術の普及	◆継続実施	米穀課
				◆イメージアップパンフレットの配布	
				◆こしいぶき減農薬栽培の取組	
特別栽培米(こだわり米)の生産数量	12,721ト	△8,990ト	△9,365ト	16,649ト	
土壌診断による土づくりの実施			◆土壌調査の実施		営農企画課 経済課
			◆診断に基づく土づくり肥料の販売促進		
土づくり肥料の取扱数量、土壌調査点数	19,000袋 土壌調査点数160点	○18,097袋 ○土壌調査点数150点	○25,888袋 ○土壌調査点数160点	※28,000袋 土壌調査点数200点	

米

重点施策		目標	行動計画・目標値			担当部署
評価指標	2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	令和3年度(※)		
大豆	「里のほほえみ」の増収技術の確立		◆「エンレイ」から「里のほほえみ」への品種切替の推進	◆継続実施		担い手支援班 米穀課 営農企画課
	「里のほほえみ」の作付面積、反収	950ha 250kg/10a	△作付面積879ha △反収153.4kg/10a	△里のほほえみ881ha ※エンレイ115ha △反収127kg/10a	※里のほほえみ880ha ※エンレイ120ha 300kg/10a	
園芸	大規模既存産地の維持発展		◆既存品目面積の維持拡大	◆玉ねぎ作の推進により早生品種エンレイの導入		園芸農産課
			◆値決め販売を進める	◆継続実施		
			◆産地情報の適正化			
	園芸品目販売高	園芸品目販売高 33億7千万円	△園芸品目販売高 33億5千万円	△園芸品目販売高 33億4千万円	※32億円	
園芸	圃場整備事業等を契機とした加工・業務向け園芸品目の拡大		◆圃場整備を契機とした高収益作物の導入(機械化一貫可能品種)	◆継続実施		営農企画課
	高収益作物の導入面積	玉ねぎ30ha キャベツ6ha いもジェンヌ0.5ha	△玉ねぎ13ha △キャベツ4ha ○いもジェンヌ0.5ha	△玉ねぎ16ha △キャベツ4.5ha ○いもジェンヌ2ha	※玉ねぎ20ha キャベツ7ha ※いもジェンヌ2ha	
園芸	水稻育苗ハウスを利用した園芸品目導入		◆切花、冬ブロッコリーの各営農園芸センターと連携した生産指導・販売の情報の共有	◆前年事例を踏まえた推進資料の作成、訪問活動実施	◆新規参入農家、既存農家からの意見集約・支援実施	担い手支援班
		新規生産者数	一般切花5人 冬ブロッコリー10人 ミニトマト5人	×一般切花0人 △冬ブロッコリー2人 ×ミニトマト0人	△一般切花2人 △冬ブロッコリー1人 ×ミニトマト0人	
園芸	「玉ねぎ」収穫後の後作品種の展開		◆輪作経営体への生育・収量調査の実施 ①玉ねぎ→枝豆 ②玉ねぎ→大豆 ③玉ねぎ→ブロッコリー ④玉ねぎのみ(砂地・田)	◆継続実施	※◆輪作経営体への生育・収量調査の実施 ①玉ねぎ→枝豆 ②玉ねぎ→大豆 ③玉ねぎのみ(砂地・田) ◆輪作体系の確立・増	担い手支援班
		実証圃の設置数	5圃場	△設置数 4圃場	△設置数 3圃場	

<トータルコストの低減>

重点施策		目標	行動計画・目標値			担当部署
評価指標	2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	令和3年度(※)		
低コスト生産技術の推進	低コスト生産技術の普及		◆密苗・密播対応田植機の普及推進、密苗・密播栽培技術の確立			営農企画課 施設課
			◆大規模生産者向け水稻直播技術の確立			
	密苗・密播栽培面積、水稻直播栽培面積	密苗・密播面積230ha 直播面積645ha	○密苗・密播面積225ha ○直播面積642.5ha	○密苗・密播面積240ha ○直播面積675.5ha	※密苗・密播面積240ha ※直播面積675.5ha	
生産資材価格の引き下げ	統一肥料の銘柄集約、JA事業連携の統一肥料導入によるコスト低減化		◆全国統一肥料「14-14-14」、水稻県下統一肥料「越後の輝き」、JA事業連携肥料「あい菜名人」の銘柄集約	◆継続実施		経済課 営農企画課
	統一肥料取扱数量	全国統一肥料35,000袋 県下統一肥料102,000袋 「あい菜名人」25,000袋	○全国統一肥料30,247袋 △県下統一肥料100,599袋 ○「あい菜名人」25,316袋	△関東甲信越統一肥料29,584袋 ○県下統一肥料110,637袋 △「あい菜名人」22,901袋	※関東甲信越統一肥料34,000袋 ※県下統一肥料120,000袋 ※「あい菜名人」25,000袋	
生産資材価格の引き下げ	大型規格品農薬によるコスト低減化		◆大型規格品の新規取り扱い品目の推進	◆継続実施		経済課 営農企画課
	大型規格品目数	93品目	○91品目	○93品目	95品目	
生産資材価格の引き下げ	大規模経営体への肥料・農薬満車直送によるコスト低減化		◆対象者のリストアップ、利用者への推進	◆肥料、農薬満車の全農との協議	◆継続実施	経済課 担い手支援班
	肥料・農薬直送対策利用軒数	55軒	○62軒	○56軒	57軒	
生産資材価格の引き下げ	JA事業連携での見積り合せによるコスト低減化		◆取扱い高上位品目選定による全農・他業者への見積り依頼	◆継続実施	※◆5JA合併協議会による品目選定と見積り依頼	経済課
	対象品目数	35品目	△対象品目数 24品目	△対象品目数 25品目	対象品目数 ※30品目	
生産資材価格の引き下げ	奨励措置価格算入による土づくり肥料の推進		◆奨励単価の算出、予約推進の取組	◆継続実施		経済課 営農企画課
	助成対象品目の取扱数	19,000袋	○取扱数 18,097袋	△取扱数 18,551袋	取扱数 20,000袋	
生産資材価格の引き下げ	リース事業の推進、低価格モデルトラクター共同購入の推奨		◆コンバインシェアリース 現在の利用者、麦作付者への利用推進	◆継続実施		施設課
			◆低価格トラクターアンケート結果に基づく購入希望者への推進	◆継続実施	※◆低価格中型トラクター リストアップ先に基づく購入希望者への推進	
	コンバインシェアリース利用件数、低価格トラクター販売数	シェアリース利用3件 トラクター3台	△シェアリース利用1件 △トラクター2台	×シェアリース利用0件 ×トラクター0台	シェアリース利用4件 トラクター3台	

<担い手経営体へのサポート>

重点施策		目標	行動計画・目標値			担当部署
評価指標	2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	令和3年度(※)		
Web簿記の導入推進と消費税 軽減税率への対応			◆農業簿記システム(W eb簿記)による経営分 析、消費税軽減税率へ の対応準備	◆継続実施		担い手支援班
	Web簿記による青 色申告者数	190名	○188名	○198名	※200名	
JA出資型法人の設立と安定 経営			◆JAの作業受託による 担い手農家のサポート	◆JAの作業受託と出資 型法人設立の検討	◆JA出資型法人の設立ま たはJAの作業受託による 担い手農家のサポート	営農企画課
	農作業受託 玉ねぎ 収穫 30ha 玉ねぎ 育苗 30ha 玉ねぎ 定植 30ha 水稲 耕起 10ha 水稲 代掻き 10ha		農作業受託 △玉ねぎ 収穫 5.6ha △玉ねぎ 育苗 7.0ha △玉ねぎ 定植 5.5ha	農作業受託 △玉ねぎ 収穫 10ha △玉ねぎ 育苗 10ha △玉ねぎ 定植 10ha ※玉ねぎ 乾燥調製 10ha ×水稲 耕起 無し ×水稲 代掻き 無し	農作業受託 ※玉ねぎ 収穫 20ha ※玉ねぎ 育苗 20ha ※玉ねぎ 定植 20ha ※水稲 耕起・代掻き・収穫 0ha	
	作業受託延べ面積	110ha	△作業受託延べ面積 18.1ha	△作業受託延べ面積 40ha	※60ha	
営農計画策定支援システム (Z-BFM)を活用した作業体系 の効率化推進			◆システムに対する知 識向上・農閑期時での提 案実施	◆「水稲面積の拡大」「水稲 農家の園芸導入」両ケース 該当農家への提案・実施	◆提案内容の資料化・経営 相談への利用化・営農セン ターとの連携実践	担い手支援班
	新規取組件数	2件	○2件	○3件	2件	
新規就農者への支援および育 成			◆営農センター・支店融資 担当者との連携を図り、補 助事業・融資相談の対応	◆継続実施		担い手支援班
			◆県・市の補助事業説 明会の参加、提案事業 の周知	◆継続実施	◆栽培作物の生産性・出荷 率の把握とフォロー実施	
	新規就農者数	5人	△新規就農者数 2人	△新規就農者数 2人	5人	

【経 営】

◆持続可能な経営基盤の確立・強化

<事業実施体制の再構築>

重点施策		目標	行動計画・目標値			担当部署
評価指標	2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	令和3年度(※)		
直売所の活性化・情報発信の強化・新規出荷者の拡大				◆よりな一れ燕いちの改装オープン		園芸農産課
			◆直売所出荷向け野菜栽培指導会の開催・出荷登録者の推進 ◆地域、消費者との交流を目指すイベントの開催	◆継続実施	◆継続実施 ◆直売所のあり方・機能等の検討	
出荷登録者数、イベント・情報発信回数	出荷登録者数 450人 イベント・情報発信 8回	△出荷登録者数 330人 △イベント・情報発信 5回	△出荷登録者数 440人 △イベント・情報発信 1回	※出荷登録者数 470人 ※イベント・情報発信 5回		

<組合員および地域とのつながり強化>

重点施策		目標	行動計画・目標値			担当部署
評価指標	2年度計画	令和元年度実績 (○・△・×)	令和2年度実績 (○・△・×)	令和3年度(※)		
アクティブメンバーシップ	組合員との絆の強化・次世代層との新たな関係構築		◆1地区1協同活動の取組・地域農業、協同組合への理解促進	◆継続実施		総務課
	「支店だより」による組合員、地域住民とのつながり強化の継続		◆支店での定期的な編集、発行の実施	◆継続実施		総務課
	健康づくり・生きがいつくりの活動支援の継続 (ウォーキング大会・ゲートボール大会・ソフトバレー大会、健康教室の開催)		◆各大会、催しを通じJA事業のアピールと利用拡大	◆継続実施 ※◆健康教室実施施設の閉鎖等により未開催に変更。	◆継続実施	
参加人数	ウォーキング 70名 ソフトバレー 140名 ゲートボール 90名 健康教室 200名	△ウォーキング 20名 △ソフトバレー 138名 △ゲートボール 80名 △健康教室 160名	×ウォーキング 0名 ×ソフトバレー 0名 ×ゲートボール 0名 ×健康教室 0名	ウォーキング 70名 ※ソフトバレー 140名 ※ゲートボール 70名		
地域農業・JA応援団づくり	「ちゃぐりん」「バケツ苗」無料進呈・学校教育田活動・直売所食材利用による料理教室、JAまつりイベントの開催継続		◆管内小学校への教育図書無料進呈の継続 ◆管内小学校・保育園へのバケツ作物無料進呈の継続 ◆学校教育田への支援活動継続 ◆地元農産物を使用した料理教室の開催継続	◆継続実施		営農企画課 総務課
		独身男女出合いの場の提供を通じ地場産農産物のPR・JAの魅力発信継続	◆近隣JA共催による出合いの場の提供	◆継続実施		総務課
参加人数	80名	△参加人数 70名	×参加人数 0名	※60名		